絆

国立稲門会会報
２０１６年3月２７日発行
初号

会長挨拶

国立稲門会々長　石井　昌浩

その昔、山形の県立高校を中退し１７歳で単身上京したときが東京暮らしの初めでした。

運よく大学に入ったものの、アルバイトに精を出すかたわら自治会活動に参加するなど慌ただしい学生時代を送りました。早慶戦にも行かずじまいで卒業してしまいました。

一所不住、漂泊の人生を夢見て青春時代を過ごした私が、国立の街に５０年も住み続けるとは思いもよらないことでした。それほどに国立はなぜか人を惹きつける街です。

ところで、会長を仰せつかってから、それまでの「規約なし、名簿なし、会費なし」の「三無主義」の伝統を守っていましたが、最近になりもう少し組織を活性化したいという機運が生まれて、昨年から「規約、名簿、会費」を定めることにいたしました。

もとより在任中は何のお役にも立てなかったのですが、母校を応援し仲間の親睦を図りながら、国立在住の他大学の皆様と連携を深められたのは思い出に残ることです。

お届けする会報が国立稲門会の会報第１号になります。会員の皆様の力で魅力ある会報に育てていただきたいと願っています。

同好会報告

国立稲門会ではいくつかの同好会活動を行っていますので、それらの活動状況をご紹介いたします。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

稲美展

和泉　喜兀

国立稲美展は、早稲田の芸術家集団の発表の場として今年２５年目の展覧会です。

国立稲美展の本家ともいえる「稲美会」は今年４３回を迎える早稲田マン絵画家の老舗であり毎年末に新宿のギャラリー「絵夢」で開催しています。国立稲美展は絵画・写真・陶芸・工芸・書など総合的な展示を中央線の沿線隋一といわれる国立コート・ギャラリー で毎年行っています。今年の予定は以下の通りです。

第２５回　国立稲美展
平成２８年７月２１日（木）～７月２６日(火)
皆様の作品を出展してみませんか。
連絡先、和泉喜兀、
TEL０９０７９４３４３０３
ご連絡お待ちしています。

ゴルフクラブ

小野沢純一

国立稲門会ゴルフ会の紹介をさせていただきます。国立稲門会ゴルフ会は、現在登録会員数は１６名であり、毎年２回春秋の定例コンペと、夏の国立三田会との国立早慶戦コンペを開催し、健康維持と親睦を図っております。ゴルフの好きな仲間がスコアを気にせず、楽しく親睦を深めることを目的としたコンペですので、国立稲門会会員でゴルフに興味のある方はお気軽にご参加下さい。多くの新規参加者をお待ちしております。

さて、昨年の成績ですが、春は参加人数８名で６月８日（月）に立川国際カントリー倶楽部で開催され優勝は小野沢さんでした。秋は参加人数６名で１０月２６日（月）に立川国際カントリー倶楽部で開催され優勝は池田さんでした。なお、夏の国立早慶戦は残念ながら稲門会参加予定者が３名と少なく辞退いたしました。

平成２０年頃は４組１６名ほどでコンペが開催されていましたが、最近は参加者が少なくなりコンペ開催が危ぶまれてきております。プレー終了後に表彰式を兼ねた和やかな懇親会も行いますので、ゴルフ会に入会し楽しみながら健康を維持しませんか。多くの会員の参加をお待ちし

ております。

同好会といたしましてはこのほかに囲碁の同好会の稲石会(幹事、立花醇二)と、美術館巡り（幹事、鈴木幸雄）がありますが、今回は紹介を省略させていただきます。

市民祭

扇田　正俊
和泉　喜兀

3年前に、国立稲門会の会員数や若い方が少ないことから、会員募集やPRのひとつとして国立市民まつりへ参加しました。

昨年の第４６回国立市民まつりは、例年とおり１１月３日に行われました。当国立稲門会の参加も３年目になりテントの設置などは、理工学部の浜野さんの施工図によりだいぶ手慣れて６人のテント立ち上げもスムースに行われました。このテントは、会計担当の秋田さんのご厚意により提供していただいたもので参加の当初は慶應義塾大学三田会に同居させていただくことを検討したくらいで、このテントがなければ市民まつりに参加はできなかったと思われます。テント内のテーブルや椅子も秋田さん経営の金文堂文具店からの貸し出しをうけて実現しました。

参加の前夜、手持ちランプの灯でのテント設置と最終日のテント撤収に協力していただい皆さんのご協力に感謝いたします。

また祭の当日に写真を提供していただいた吉田・下田の両氏、広報のアナを努めていただいた石井さん、松久さんのお二人、校歌や応援歌で盛り上げるためＣＤプレイヤーを提供していただいた鈴木氏に感謝いたします。当日明治大学国立支部支部長、中央大学白門会会長、慶應義塾大学三田会会長がそれぞれ飲み物などを持参してあいさつに来られ、当方も答礼にＷＡＳＥＤＡビールを持参しました。また慶応三田会との申し合わせで両校の学校案内を双方で設置配布し、数時間で双方配布を完了しました。

ＷＡＳＥＤＡビールの販売はその日の天候に左右されることもあり、毎年悩みどころですが、おかげ様で昨年も完売となりました。

今年も国立市民まつりにも参加予定ですが、今年は事前に若い方を中心に「国立市民まつり実行委員会」を作って進められればと思っております。

末筆ですが大学の資料とポスターを提供していただきました総長室校友会担当に御礼申し上げます。

記念講話

イタリアの旅

石井　昌浩

昨年、イタリアを訪ねた時のレポートです。

ミケランジェロ「ピエタ」

イタリアの首都ローマ、ヴァチカンの中央にそびえるサン・ピエトロ大聖堂の入り口近くに設置された「ピエタ」の像を世界各地から訪れた数百人を超す観光客が取り囲んでいました。

入館した時は肩越しにしか見ることができないほど混んでいた見物客も次第にまばらになり、ようやく「ピエタ」を間近に見ることができました。十字架から降ろされたイエス・キリストを両膝の上に抱きかかえる聖母マリア像の衣裳のひだは、大理石でつくられた彫刻であることを忘れさせるほどになめらかに磨き上げられ、絹のように緩やかに大きく波打っています。私は初めて見る「ピエタ」に惹きつけられて、時間のたつのも忘れて木製の柵にもたれ見続けていました。

ピエタは哀れみ、慈悲を意味するイタリア語で、聖母マリアがキリストの遺体を膝に抱いて嘆く姿を表す彫刻や絵画をいいます。西洋美術におけるもっとも偉大な芸術家と称賛されるミケランジェロが１４９９年、２５歳の時に完成させた作品です。聖母マリアの、信仰に裏打ちされた深い悲しみと静けさと慈悲の心が見る者の心に伝わる大聖堂の荘厳な空間でした。

ミケランジェロ「ダビデ像」

イタリア中部の都市フィレンツェでは、「ピエタ」と並ぶミケランジェロの代表作「ダビデ像」をすぐ近くでゆっくり見ることができました。

フィレンツェは中世ルネサンス文化の中心でした。「ダビデ像」は、旧約聖書に描かれている紀元前１０世紀の名君と謳われた伝説的な古代イスラエルの王ダビデが、投石器を左

手で支え右手に石を握りしめて狙いを定めている、まさにこれから戦闘に臨もうとする緊迫した姿を彫り上げている作品です。

１５０１年から３年の歳月をかけて制作された作品で、人間の持つ力強さや美しさが象徴的に表現されたものとして名高く、５メートルを超す大理石の像が圧倒的な存在感を示してそびえ立っています。かつて都市国家フィレンツェ共和国が敵対勢力に囲まれて存続が危ぶまれた時期に、「伝説の巨人・ゴリアテ」に勇敢に立ち向かう「ダビデ像」は外敵に抵抗する力を結集して立ち上がろうとするフィレンツェ市民の意思を象徴するものとされていました。

ミケランジェロは古典に拠りながらも、古典を超えて人間の持つ内面性・精神性を描こうとする創作姿勢を保つことによって、芸術家としての独創性に満ちた表現を獲得していったように思えます。

「よみがえったポンペイの奇跡」

今からおよそ2千年前、イタリア南部の大都市ナポリ近郊の商業都市ポンペイにあるヴェスヴィオ山が大爆発し、ポンペイの街が5メートル以上も降り積もる火山灰や流れ出した火砕流に埋もれて地上から姿を消す大災害が起きました。その後、長い歳月を経るうちに都市ポンペイの存在そのものが次第に人々の記憶から消え去り、ローマ帝国が隆盛を極めていた当時に営まれていたポンペイ市民の生活が長期にわたり地下に埋もれたままでした。5メートルを超す火山灰や火砕流によって地下深く埋もれていたために風化せず、盗掘されることもなく、ほぼ完ぺきに近い形で手つかずのままに保存されたのです。

ポンペイの死者は、人口２万人のうち約１割の２千人というのがこれまでの定説とされています。ヴェスヴィオ山の初日の大噴火に伴う火砕流がいきなり市街を襲い、市民が一瞬のうちに巻き込まれて亡くなったのではありませんでした。数日にわたり繰り返す天地を揺るがす大地震がおさまり一段落したときに、家財道具や高価な美術品を運び出すために自宅に戻った比較的ゆとりのある階層の市民が逃げ遅れて、時速百キロを超す火砕流に呑み込まれて亡くなったケースが多いと推測されています。

広大な遺跡からは２万人を収容できる円形闘技場や、５千人が入場可能な野外劇場をはじめ、いくつかの小劇場、４つの公衆浴場、公設市場、運動場、プールなどの公共施設が発掘されています。これらの施設にはローマ帝国時代の卓越した土木・建築技術によって実現した水道設備から供給される水道水が太い鉛管を通して豊富に給水されていました。さらに驚くべきことには、市民の住宅に給水する細い鉛管が道路の端に昔のままの姿で各所に残されていることでした。大通りの交差点近くには市民のための水汲み場が設けられていました。

道路は碁盤目に整備されていて、大通りの車道（馬車道）は日本の庭石に似た丸や四角い形に整えられた敷石が敷き詰められていて、２０センチほどの高低差がつけられた両側の歩道には手ごろな小石が整然と敷かれていました。所々に車道を横切る形で歩道と同じ高さのしっかりした大きな踏み石が、馬車の通行を妨げないように飛び石状に一定の間隔を定めて敷かれているのは、歩行者のための横断歩道の役目を果たしていたものと思われます。

ポンペイのメイン通りは国立の「さくら通り」よりやや広く、路地の道路幅は「富士見通り」や「旭通り」とほぼ同じくらいの広さでした。

馬車道の敷石には、２千年前の馬車の車輪ですり減へった跡がそのままの形で残っていました。「歴史の重み」という言葉が自然に心に浮かんだ瞬間でした。奇跡としか言えない偶然がいくつも重なり合って、１７００年の時を経て発掘されよみがえったイタリアの古代都市ポンペイには、まだ解き明かされていない秘密がたくさん残されています。

市民の住まいも2千年前の姿のまま保存されていました。一般市民の住宅を初め、パン屋さん、酒場など様々な職種の店も数多く見られます。とりわけ目を引いたのは、別荘や規模の大きな住宅には必ず飾られている大小の壁画でした。生乾きの漆喰壁に直接水性の絵の具で絵を描くフラスコ画に特有の手法が幸いして、２千年の昔の壁画が色あせることなくそのまま伝わっています。

ところで幸いなことに、大規模な「ポンペイの壁画展」が近く日本国内で開催されます。４月２９日から

来年まで、東京を皮切りに、名古屋、兵庫、山口、福岡の各地をそれぞれ2か月かけて巡回される予定です。展覧会のタイトルは、「天空に甦えるイタリアの奇跡」です。

今後の予定

副会長　鈴木　幸雄

年間の予定は本会報で紹介いたしました各同好会の幹事からその都度皆様に連絡がありますので、皆様多数の参加をお待ちしています。全員参加のイベントといたしましては春の総会と暮れの忘年会があります。

追って皆様にはご案内が届きますが、今年の総会は5月29日(日)に実施される予定です。

昨年行われました総会と忘年会の記録を紹介いたします。

【総会】

第39回国立稲門会総会は、平成27年5月28日（土）午後5時より中華料理店「雅月」において会員26名の参加のもとで開催されました。例年は4月に開催しておりましたが、会員制度の導入等により準備時間が必要になったこともあり5月の開催となりました。

当日はご来賓として早稲田大学校友会より金子地域担当部長、国分寺稲門会清水会長および眞宅副会長、国立三田会内藤会長、明治大学校友会国立地域支部柳澤支部長の皆様にもご臨席をいただきました。

三浦幹事長の司会のもと、はじめに石井会長のご挨拶をいただいた後、分科会報告として稲美会を和泉副幹事長、ゴルフ会を渡邊相談役、稲石会を立花幹事より活動報告がありました。また、秋田会計による会計報告に続き鈴木副会長より会員制度の導入結果について報告がありました。

その後、ご来賓の皆様よりご祝辞をいただいた後、ようやく扇田副会長のご発声により乾杯となりました。お料理を頂きながらお酒を酌み交わす中、初めて参加した会員や久しぶりに参加した会員の皆様からご挨拶を頂くなど、和やかな雰囲気の中で会は進んでいきました。

最後は、校歌「都の西北」の大合唱とエールの交換を行い、池田相談役の挨拶をもって散会となりました。

【忘年会】

恒例の国立稲門会忘年会が平成27年12月6日（日）午後5時より中華料理店「雅月」において会員28名の参加のもとで開催されました。

忘年会では恒例となりました参加者全員による自己紹介を行いましたが、思わぬところで関係があることに気付くなど、初参加の会員の方々にとっても身近に感じでいただけた忘年会となりました。

また、今回初めてプレゼントの抽選会を行いましたが、全員にプレゼントが行き渡り皆さん楽しく賑やかに会は進みました。

鈴木副会長のフルートの(迷)演奏のあと、フルート伴奏により校歌「都の西北」を大合唱し散会となりました。

編集後記

幹事長　三浦　弘幸

今回早稲田大学国立稲門会として初めて会報を発行する運びとなりました。

母校早稲田大学を誇りに思い、どんなことがあっても理不尽であっても早稲田が最高だと思う早稲田マン。その集まりが稲門会です。

国立稲門会には更に同じ町国立に住む、働いているというもう一つのアイデンティティーがあります。

皆さんが集まると、「同じ小学校ですね」、「中学校は一中ですか」、「幼稚園は多摩春光園なんですよ」などなど、またもう一つのアイデンティティがあるのが国立稲門会の楽しさではないでしょうか。

私も昭和26年に国立第二小学校に入学し、国立第一中学校、桐朋と国立で過ごし、そして早稲田に行きました。私の青春時代は国立と早稲田なのです。

社会人になってから国立にお住まいになった方々も沢山いらっしゃいます。「早稲田」と「国立」の共通項で、楽しくやっていこうではありませんか。

今回暫定的に会報のタイトルを「絆」としましたが、どんな名前がふさわしいか皆様のアイディアを出していただき、国立稲門会にふさわしい会報の名前を付けたいと考えております。

早稲田大学国立稲門会
会報「絆」第1号
発行責任者、石井昌浩
編集責任者、三浦弘幸